



# 国吉城址と 佐柿の町並み

四五〇年の時を超えて

- 栗屋家家紋「花菱に扇」 ● 右上
- 青蓮寺の大銀杏(町天然記念物) ● 右下
- 本丸跡から佐柿を望む ● 左上
- 本丸跡に立つ国吉城址碑 ● 左中
- 発掘調査で出土した石垣(平成14年) ● 左下

福井県美浜町教育委員会

## 国吉城と佐柿の歴史

～ 若狭国東部の要の城と町 ～

美浜町は、旧若狭国の東端部に位置し、旧越前国との国境に接しています。越前国からは、若狭国を経て丹後国に至る街道(旧丹後街道)が唯一の道として通っており、現在の国道27号と重なります。国境の関峠を越えて佐田、太田、山上の集落を過ぎると、御岳山から天王山に連なる山系が南北に立ちはだかっています。この山系を越える唯一の峠として樺峠がありました。このように、越前国から若狭国の中に入るには、幾重もの峠を越えなければならず、まさに若狭国の東界を守る天然の要害となっていました。

その樺峠の喉元に位置し、丹後街道と樺峠を眼下に見下ろす通称“城山(標高197.3m)”に聳え立つのが、戦国時代の山城である国吉城でした。若狭国守護大名武田氏の重臣であった栗屋越中守勝久が、若狭国境の“境目の城”として、弘治2年(1556)に古城跡を改修して築城したといわれています。

若狭地方に数多く築かれた中世城館の中でも、国吉城の名声を高めているのは、永禄6年(1563)、国吉城に押し寄せた越前朝倉氏の軍勢を数年にわたり撃退し続け、壮絶な籠城戦を展開した“国吉籠城戦”であり、城主栗屋勝久の勇名とともに伝わっています。この戦いの様子は、『若州三方郡国吉籠城記』などに記されています。元亀元年(1570)4月には、越前朝倉氏攻めのために京都を進発した織田信長が、若狭国熊川を経て、木下藤吉郎(豊臣秀吉)や徳川家康を伴って国吉城に入り、長年朝倉勢を相手に戦った栗屋勝久の武勲を大いに賞賛したといわれています。その後、国吉城を安堵された栗屋勝久は、織田方の武将(若狭衆)として各地を転戦しました。

天正11年(1583)5月、若狭半国に封された木村常陸介定光は、城山の西南麓の小集落であった佐柿を城下町として整備すべく、樺峠を下った丹後街道を城下の中心に通し、耳川までの直線道を開きました。街道沿いには短冊型に区画された町家が百戸以上建ち並び、各宗派の寺院も整備されました。慶長5年(1600)、若狭国の領主となった京極高次は、佐柿の町の入口に関所を設け、国吉城と佐柿の整備を進めました。しかし、同9年(1604)の大火によって佐柿は灰燼に帰したものの、後に復興されました。

国吉廃城後の寛永11年(1634)、若狭国に入封した譜代大名酒井忠勝は、若狭国東部支配の拠点として、佐柿町奉行所(御茶屋御殿)を置きました。佐柿は、国吉城の城下町から丹後街道の宿場町に変貌を遂げ、現在も江戸時代の町並みを彷彿とさせる景観を見ることができます。幕末には、敦賀で処刑された水戸天狗党のうち、小浜藩預りとなった110名余を収容した准藩士屋敷も建てられました。奉行所跡や屋敷跡には、現在も見事な石垣が残されています。

明治以降も、三方郡の中心として郡役所や学校、郵便局、駐在所が置かれるなど、繁栄を極めてきましたが、政治・交通・物流網の整備などによって耳川流域の郷市や河原市辺りに町の中心が移り、現在に至っています。

国吉城址と佐柿遠望 ● 背景



国吉籠城戦関連城砦位置図 (美浜町全図抜粋、縮尺1/50000)

# 平成21年(2009)4月

## 若狭国吉城歴史資料館開館

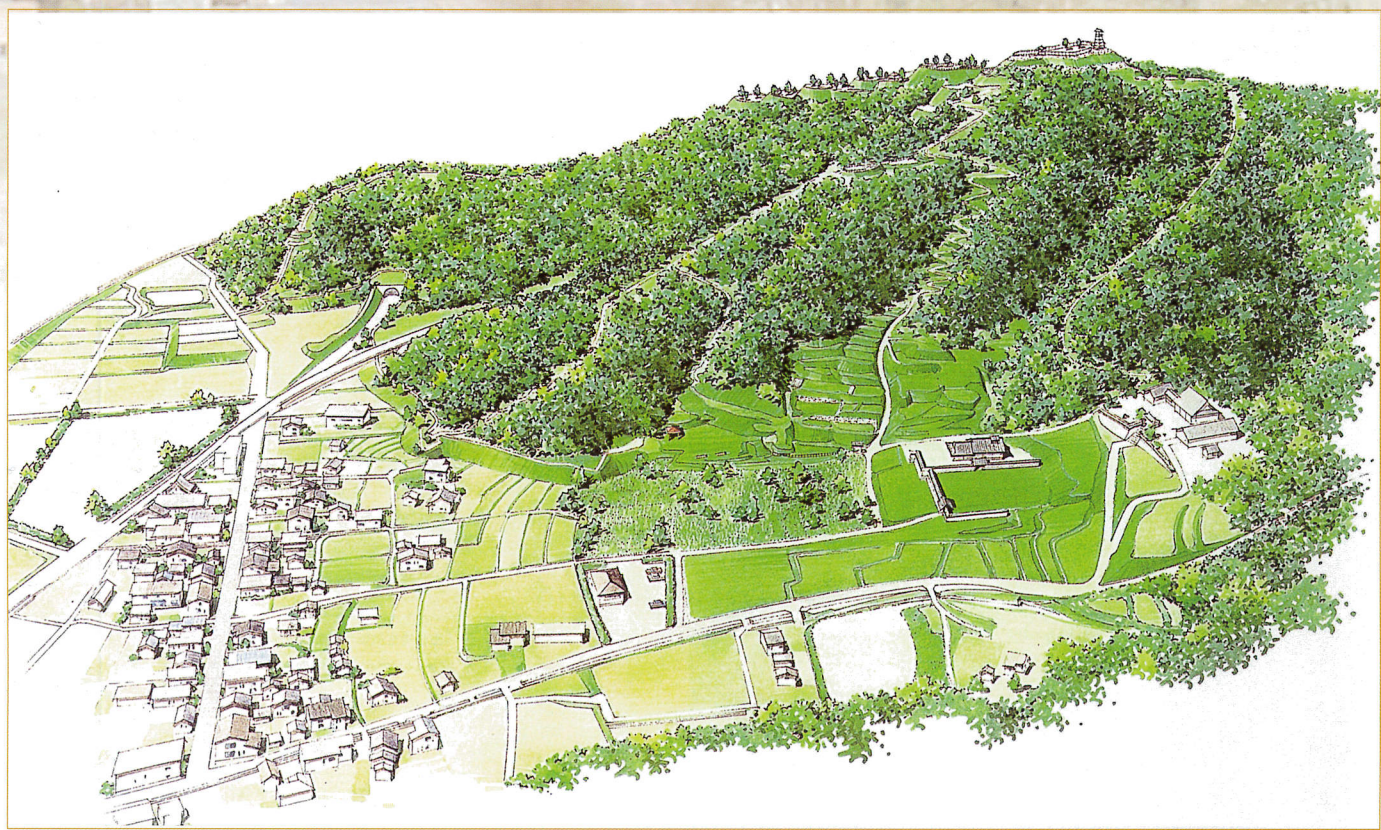
### 国吉城址史跡調査及び公園整備事業の概要

美浜町では、立派な歴史を持つ国吉城址を大切に保存し、国吉城址と佐柿の古い町並みを生かした、歴史に触れる町づくりを目指し、平成12年度より、「くによしじょうししせきちようさおよ 公園せいびけいかくさくていじぎょう国吉城址史跡調査及び公園整備計画策定事業」に着手しました。平成13年度には、国吉城址の整備・復元、佐柿区の歴史的環境の保全と活用、資料館施設の建設を盛り込んだ全体計画案と基本方針をまとめた『くによしじょうし しゅうへんちくしせきこうえんせいびきほんけいかく国吉城址および周辺地区史跡公園整備基本計画』を策定しました。

これを受けて、平成15年度には全体の核となる国吉城址周辺部について、計画範囲をブロック別に区分して年次計画をとりまとめた『くによしじょうししせきこうえんとうかんぎょうせいびけいかく国吉城址史跡公園等環境整備計画』を策定しました。本計画では、国吉城址の発掘調査計画と調査成果を反映させた史跡公園整備計画の策定、城山の自然環境保全と遊歩道の整備、若狭国吉城歴史資料館建設などについて、それぞれ平成20年度までを第一期とする計画を定めています。そして同年、事業名を「くによしじょうししせきちよう国吉城址史跡調査及び公園整備事業」と改めて、現在、同計画に沿った発掘調査と用地取得、及び一部整備工事に着手しています。

今後も、同計画に基づいて事業を進める予定ですが、発掘調査では予想外の新発見も相次いでおり、長期的な調査計画を立て、調査成果を十分に反映させた整備を目指すため、平成21年度以降も含めた長期計画を検討していく予定です。同時に、佐柿区の古い町並みの保存と活用にも取り組みたいと考えています。

国吉城址史跡公園等環境整備計画  
イメージ鳥瞰図



## 佐柿の町家と町並み

～ 歴史と伝統が息づく町 ～

現在の佐柿の原型ともなった国吉城の城下町は、<sup>はしばひでよし</sup>羽柴秀吉(豊臣秀吉)の家臣である木村常陸介定光によって、天正14年(1586)頃までに整備されたと伝えられています。定光自身が計画したという説や、秀吉の命令とする説もあります。

寛永11年(1634)、小浜藩初代藩主酒井忠勝公は、佐柿を敦賀とともに小浜藩東部の政治・経済の拠点と位置付け、その支配のため町奉行所を設置しました。また、藩主の領内巡検や参勤交代の時の宿泊所・休憩所として、御茶屋屋敷が同敷地内に建てられました。国吉城址麓の**佐柿町奉行所(御茶屋屋敷)**跡は、地元では“御陣屋”と呼ばれており、現在も壮大な石垣が残されています。

当時の町の様子は、現存する古絵図や、古い町家と町並みから想像することができます。椿峠を下ると、北の入口として**佐柿関所**がありました。周囲を石垣と垣根で囲まれた枡形内に冠木門と番所が建てられ、旧丹後街道を往来して町に出入りする人々を監視しました。街中を通る**旧丹後街道**は道幅約6mで、両側際に幅約30cmの側溝があります。佐柿を南進して突き当たりを鉤状に折れて河原市方面に続いていました。街道と徳賞寺に登る道が交差する辻には、**高札場**がありました。ここは佐柿のほぼ中心にあたり、小浜藩や幕府の定書などが掲げられました。そしてこれより東の奉行所や徳賞寺の区画とは木戸で仕切られていました。

町家の大半は近現代に建て替えられていますが、表構えの意匠は比較的統一化され、現在も情緒豊かな町並み景観を形成しています。**小畑家住宅**は、高札場の辻の角地にあり、母屋屋根の鬼瓦に弘化3年(1846)の銘があり、江戸時代まで遡る数少ない町家建築です。かつては造酒屋で、現在も随所にその頃の特徴を見ることができ、福井県内でも大変貴重な建築です。他の古い町家を見ると、街道に面した表構えは商家でありながら、短冊型地割の奥部分には土蔵と共に牛小屋が見られる家があります。これは、商家と農家の両方の性格を併せ持った町家ということで、大変興味深い特徴です。

また、多くの人々が集まる城下町、宿場町の頃の名残として、多くの寺院が存在することも佐柿の特徴の一つです。

**普光山青蓮寺**(真言宗)は、霊亀2年(725)に城山南麓の

“青蓮寺谷”に開山されたと伝えられ、寛永12年(1635)に現在地に移されました。寺には、平安～鎌倉時代のものと伝わる聖観音立像や涅槃図、不動明王図などの仏像仏画や、栗屋勝久が織田信長に味方して越前朝倉氏を滅ぼし、一乗谷から持ち帰った五百体愛染明王図(伝弘法大師筆)や、高麗青磁浮牡丹皿が収められています。境内には、小浜藩2代藩主酒井忠直公お手植えといわれる大銀杏(町天然記念物)があります。**陽光山徳賞寺**(曹洞宗)は、栗屋勝久が戦死者追悼のため、旭溪(旭谷)の麓にあった徳賞庵という草庵に境内寺領を寄進したものです。現在の本堂は、最近の調査で江戸時代中期まで遡ることが判明しました。庫裏は天保12年(1841)の再建であることが判り、ギャラリーが併設されました。本堂には当山開基として栗屋勝久の位牌が祀られており、本堂裏の墓地には墓と伝わる五輪塔があります。

江戸時代末期の慶応元年(1865)、常陸国筑波山で挙兵した水戸天狗党は、京都を目指すも越前国敦賀で幕府に降伏し、首領武田耕雲斎以下353名が処刑されました。この時、遠島を申し付けられた110名余は小浜藩監視下で謹慎しましたが、後に遠島から小浜藩預りとなりました。小浜藩では彼らを准藩士格として扱い、慶応3年(1867)5月、佐柿に**准藩土屋敷**を新築し、敦賀から全員を移しました。跡地には石垣が残っています。

【注意】佐柿は、現在も住民が生活する町です。見学の際は住民に迷惑とならないよう散策して下さい。みだりに家中をのぞいたり、勝手に家屋・敷地内に入らないで下さい。また、寺社の見学は、ご住職や管理人の許可を必ず得て下さい。



佐柿の町並み① 立町沿いの町並み



佐柿の町並み② 鉤折れの街道

## 国吉城址を歩く

～姿を現した戦国の堅城と石垣造りの居館跡～

国吉城址には現在、昔の建物などは残されていませんが、城郭を構成する曲輪の石垣や土塁、堀切などの土木構築物を見ることができます。これまでは雑木林が生い茂り、土砂に埋もれたために城の遺構を見ることは難しかったのですが、近年の発掘調査によって、次第に昔の姿が現れてきました。

城郭は、大きく分けると城山頂上部の山城部(詰城)と、その山麓の城主居館部(根古屋)で構成されています。城主や家来は、普段は山麓で生活し、戦争の時に山城に籠りました。詰城と根古屋が一体化した形態は、戦国時代の山城の典型例といえるでしょう。昭和58年(1983)、町の史跡に指定されました。

城主居館跡は、谷間に段々状の平地が幾重もあり、土塁や石垣が残されています。平成13・14年度に実施された遺構

の確認調査において、石垣や石組溝、真砂石を敷き詰めた敷石遺構のほか、大きな平石を配した礎石立建物跡が発見されました。出土した遺物の時期や遺構の様相などから、16世紀後半頃のものと思われます。その後、平成16年度の調査で、居館跡正面の大規模な石垣が確認されました。こちらは16世紀末頃から、17世紀初めにかけて築かれたものと考えられます。この成果によって、国吉城は戦国時代だけでなく、江戸時代に入った後もしばらく城として機能していたことが明らかとなりました。



城主居館跡の礎石立建物跡①

居館跡から九十九折りの山道を登ると、中腹に二ノ丸と伝承される曲輪があります。南面にとても高い土塁が造られています。美浜町の市街地方面への展望に優れ、西や南から攻め上る敵を撃退する構造となっています。

伝二ノ丸跡からさらに山頂部を目指すと、次第に尾根の形がはっきり見え、明らかに人工的に削られたような地形が目に入り込んでいきます。また、斜面には所々に石垣が見えるようになります。

山頂近くに来ると、椿峠に向かう北西尾根上に連続する曲輪群(Ⅱ～Ⅵ郭)が残されています。曲輪は、尾根に沿って一直線に段々と配置されていて、真横から見ると階段状に見えます。特にⅡ郭とⅢ郭の高低差は非常に大きく、なかなか登ることが出来ません。



城主居館跡の礎石立建物跡②

標高197.3mの城山の最高所が本丸跡です。郭内のほぼ中央に大正時代に立てられた国吉城址碑があり、石仏や仏塔、五輪塔が集められています。これらは、国吉籠城戦の時に敵に投げつけるために近隣から集められたものといわれ、城山の至

るところで見かけます。周辺の尾根とは堀切によって分断され、周囲には石垣の痕跡が所々に見られますが、かなり崩落しています。このような石垣は、Ⅱ郭やⅢ郭でも見ることができます。南端にL字型の土塁が残るほか、東面と北西面に虎口(出入口)があります。北西虎口はⅡ郭に通じ、東面虎口から尾根依いに進むと、腰越坂を経て国吉城の砦である岩出山砦跡に至ります。

本丸跡に立つと、周囲への展望が非常に良く、東は敦賀半島と山東の各集落がよく見え、岩出山砦跡や朝倉方の陣城であった中山の付城跡や駆倉山の付城跡も見渡せます。北には若狭湾と天王山、西には美浜町市街地と三方町の山々、南は御岳山が一望できます。周囲の山々に比べると小山ですが、椿峠の喉元に位置し、展望も開け、山肌は滑りやすく登りきれず、少人数でも守りやすい、城を築くにはまさに絶好の立地といえるでしょう。

国吉城址と佐柿現況図  
縮尺1/4000



佐柿町奉行所(御茶屋敷)跡



准藩士屋敷跡



細家住宅



徳尊寺



本丸跡に残る石垣



本丸虎口跡



III郭切岸(III郭より)



III郭跡全景



城主居館跡全景



居館跡の石組溝



発掘調査で出土した城主居館正面の石垣(H16)

# 国吉城および佐柿区関連略年表

～ 450年の時を超えて～

年号	西暦	粟屋氏・国吉城・佐柿の出来事	全国の出来事
弘治 2	1556	粟屋越中守勝久、佐柿の古城跡を利用して国吉城を築く。	
永禄 元	1558	若狭守護武田氏の内紛、当主信豊は近江に逃れ、息子の義統が当主になる。	
永禄 4	1561	粟屋勝久、高浜の逸見駿河守と結んで武田義統に謀反をおこす。 4月、粟屋勝久、佐柿屋形にて連歌会を開く。	1560 桶狭間の戦い。
永禄 6	1563	9月、敦賀天筒城主朝倉太郎左衛門、国吉城を攻めるが、粟屋勢が城を守り通す。	
永禄 7	1564	9月、朝倉勢、山東郷を荒らし、国吉城に攻め寄せるが、粟屋勢が銃撃戦で撃退。 朝倉勢、太田芳春寺山に中山の付城を築く。	
永禄 8	1565	8月、朝倉勢、耳庄へ乱入。9月、粟屋勢、中山の付城に夜襲をかけ、朝倉勢撤退。	1565 三好・松永、13代将軍足利義輝を殺害。
永禄 9	1566	8月、朝倉勢、佐田駈倉山に付城を築いて攻め寄るが、粟屋勢よって撃退される。	
永禄 10	1567	8月、朝倉勢、駈倉山の付城に抛り山東郷を荒らす。	
永禄 11	1568	若狭守護武田元明、朝倉に降り、粟屋勝久らにも降参を勧める。	1568 織田信長、足利義昭を奉じて上洛。
元亀 元	1570	4月、織田信長、京都を出陣し、国吉城に入城。国吉城を出陣した織田勢、敦賀金ヶ崎、天筒山の両城を攻め落とすが、浅井氏の裏切りによって撤退する。 4月、朝倉勢、中山の付城に抛り山西郷、山東郷を荒らす。	1570 姉川の合戦。 1572 三方ヶ原の戦い。
天正 元	1573	8月、織田勢に攻められた浅井氏の救援にきた朝倉勢、一乗谷に撤退。粟屋勝久ら若狭衆は織田勢と共に追撃し、朝倉氏を滅す。武田元明、若狭に帰る。	1573 織田信長、15代将軍足利義昭を追放。 室町幕府滅亡。
天正 3	1575	8月、朝倉残党狩りに若狭衆も参加。	1575 長篠の合戦。
天正 10	1582	6月、羽柴秀吉、明智光秀に組した松宮、白井ら若狭国人衆を追放。 7月、武田元明、海津にて自害。若狭武田氏滅亡。	1582 本能寺の変。織田信長倒死。羽柴秀吉、山崎の合戦で明智光秀を討つ。
天正 11	1583	5月、木村常陸介定光、国吉城主になる。	1583 賤ヶ岳の合戦。
天正 12	1584	羽柴秀吉、後瀬山城、高浜城などを除き、若狭国内の大部分の城砦を破却。	
天正 13	1585	2月、粟屋勝久死去。 堀尾吉晴、一時国吉城主になる。 丹羽長重、若狭国主となり、国吉城には江口三郎右衛門を城代におく。	1585 羽柴秀吉、関白の位に進み、豊臣姓を賜る。
天正 14	1586	木村定光、再び国吉城主となり、佐柿の町を開く。	1590 豊臣秀吉、後北条氏を降し天下統一。
天正 15	1587	浅野長政、若狭国主となり、浅野平右衛門、国吉城代となる。	1592 文禄の役。
文禄 2	1593	木下勝俊、若狭国を賜る。松原三左衛門を国吉城代とする。	1597 慶長の役。
文禄 4	1595	木村定光、関白豊臣秀次に連座して切腹。	1598 太閤豊臣秀吉死去。
慶長 6	1601	京極高次、若狭国を賜る。多賀越中守を国吉城代とする。佐柿に關所を設置。	1600 関ヶ原の合戦。
慶長 9	1604	6月、佐柿大火。	1603 徳川家康、江戸幕府を開く。
慶長 19	1614	9月、大阪の陣中、粟屋越中守勝家(勝久子)病死。	1614 大阪冬の陣。
元和 元	1615	大阪夏の陣後、粟屋助太夫(勝久孫)、藤堂高虎に仕える。	1615 大阪夏の陣。豊臣氏滅亡。
元和 8	1622	粟屋五右衛門勝長(勝久孫)、豊後国臼杵藩主稲葉信通に仕える。	
寛永 5	1628	田辺宗徳入道(半太夫)、『国吉城之記』記す。	
寛永 11	1634	譜代大名酒井忠勝、小浜藩主となる。	
寛永 12	1635	忠勝、敦賀、佐柿、高浜などに奉行所と御茶屋屋敷を設置。 青蓮寺、現在地に移る。	1635 参勤交代はじまる。
寛文 9	1669	佐柿、藩より旅人の宿泊地(泊村)に指定される。	
享和 3	1803	佐柿町奉行所を陣屋と改称。	1853 黒船来航。
天保 12	1841	徳賞寺庫裏再建。	1865 水戸浪士、筑波山学兵。
慶応 3	1867	5月、小浜藩、佐柿に准藩士屋敷を新建し、預りの水戸浪士を収容。	1867 15代将軍徳川慶喜、大政奉還。
明治 元	1868	1月、鳥羽伏見の戦いで小浜藩は幕府方として出兵するも敗れる。佐柿陣屋からも出動。	1868 明治維新。
明治 2	1869	小浜藩主酒井忠禄版籍奉還し、改めて小浜藩知事に任命される。	1869 版籍奉還。
明治 4	1871	廃藩置県。佐柿は小浜県となり、後に敦賀県、滋賀県を経て福井県になる(明治14年)。	1871 廃藩置県。
明治 5	1872	佐柿に郵便取扱所できる。佐柿円行寺に要道小学校開校。	1872 新橋～横浜間に鉄道開通。
明治 7	1874	大区小区制。三方郡は敦賀県第四大区となり、佐柿に会所がおかれる。 後に三方郡に復し、引き続き佐柿に郡役所おかれる。	太陽暦採用。学制発布。 徴兵制度施行。
明治 19	1886	三方郡役所、三方村に移る。	1873 地租改正。
明治 25	1892	要道尋常小学校開校。後に佐柿尋常小学校と改称(明治38年)。	1877 西南戦争。
大正 6	1917	福井県史蹟勝地調査で国吉城址を調査。翌年、本丸跡に城址碑を設置。	1889 大日本帝国憲法発布。
昭和 29	1954	美浜町誕生。	1945 太平洋戦争終結。
昭和 42	1967	佐柿簡易水道竣工。	1970 大阪万博開催。
平成 8	1996	文化財の保存・活用に関する専門委員会発足。国吉城址整備を提言。	
平成 12	2000	国吉城址史跡公園整備計画策定検討委員会発足。発掘調査開始。 佐柿に国吉会館完成。	1995 阪神・淡路大震災。 1998 長野オリンピック開催。
平成 14	2002	国吉城址および周辺地区史跡公園整備基本計画策定。	2002 サッカーW杯日韓共催。
平成 15	2003	国吉城址史跡公園等環境整備検討委員会発足。	
平成 17	2005	国吉城址史跡公園等環境整備計画策定。町制50年記念国吉城まつり開催。	2003 美浜町町制50周年。
平成 18	2006	城山遊歩道整備。	
平成 18	2006	国吉城築城450年記念国吉城まつり開催。	
平成 21	2009	若狭国吉城歴史資料館開館。	

※参考文献 須田悦生 校註「若州三湯郡佐柿国吉籠城記」(昭和45年)  
『わかさ美浜町誌<美浜の歴史>第2巻 写されたわかさ美浜』(平成13年)

お問い合わせ先

福井県美浜町教育委員会事務局 学校教育課  
文化財保護・町誌編集室

〒919-1145 福井県三方郡美浜町金山14-1  
TEL 0770-32-0027 FAX 0770-32-0615

おいしい自然 ハートフル美浜



平成17年3月 1刷  
平成18年5月 2刷  
平成21年3月 3刷  
編集・発行 福井県美浜町教育委員会  
印刷 宇都宮印刷